

【授業科目】総合臨床実習後演習 Seminar after comprehensive clinical training

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
鈴木真紀子、高崎昭彦、千原猛、星野真理、多次淳一郎、榎本喜彦、春名誠美、北井真紀子	3年次後期	必修	1	30	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／本科目は3年次臨地実習終了後に実施する。病院検査室のみでなく、今後活躍の場となる検査センター、健康診断センター、在宅医療施設等で臨床検査技師としての総合的な能力・技術・知識の向上が図れたか、接遇能力の向上についても確認する。検査データの解釈、病態との関わりを再認識させ、臨地実習で起こった様々な問題点や疑問点を明確にし、その問題解決法を考えさせプレゼン形式で発表し、学生間での情報共有をさせる。また、臨地実習のための事前学習を検討し、2年生に伝えてもらう。演習を通じて、最新技術にも興味を持たせ、さらには卒業研究に向け、新しい臨床検査技術開発につながる研究心を養うことを目的とする。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 臨地実習で学んだこと、問題点を共有し理解できる。 ② 臨地実習で学んだことを領域別で再確認し知識理解を深められる。 ③ 臨地実習で学んだことを発表することで、プレゼンテーション能力の向上を目指すことができる。 ④ 後輩の臨地実習をより良いものとするため、事前学習内容、方法を検討し、発表できる。 ⑤ 訪問看護ステーション実習の学びを共有し、臨床検査技師としてできることを考えられる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>臨地実習レポート、ノートをまとめ、復習する(30分) 他施設の発表についてまとめ、興味を持った検査法などについて調べる(30分)</p> <p>上記例は、1単位30回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間/1回となる。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第3回～第5回 臨地実習で学んだことを施設ごとに情報共有し、まとめる。 発表スライド作成。</p> <p>第6回～第14回 各施設(病院)の発表、総括 第15回 訪問看護ステーションの発表、総括</p>						<p>第1回～第15回 高崎、鈴木、千原、榎本</p> <p>多次、春名、北井</p>	
評価方法 評価基準	<p>グループディスカッション形式。 発表実技、内容 70%、取り組み30%</p>							
教科書	<p>臨床検査学科『技能修得到達度評価実施マニュアル』医歯薬出版株式会社 『臨床検査技師臨地実習テキスト』</p>				<p>参考書等</p>		<p>該当科目 医歯薬出版株式会社 『臨床検査学講座』</p>	
学生へのメッセージ	<p>多種施設での実習を終え習得した知識・技術及び、接遇など学んだことを今後の勉学に活かしてほしい。検査データの解釈、病態との関わりを再認識し、他施設の発表を受け、卒業研究に向け、新しい臨床検査技術開発につながる研究心向上につなげてほしい。</p>							